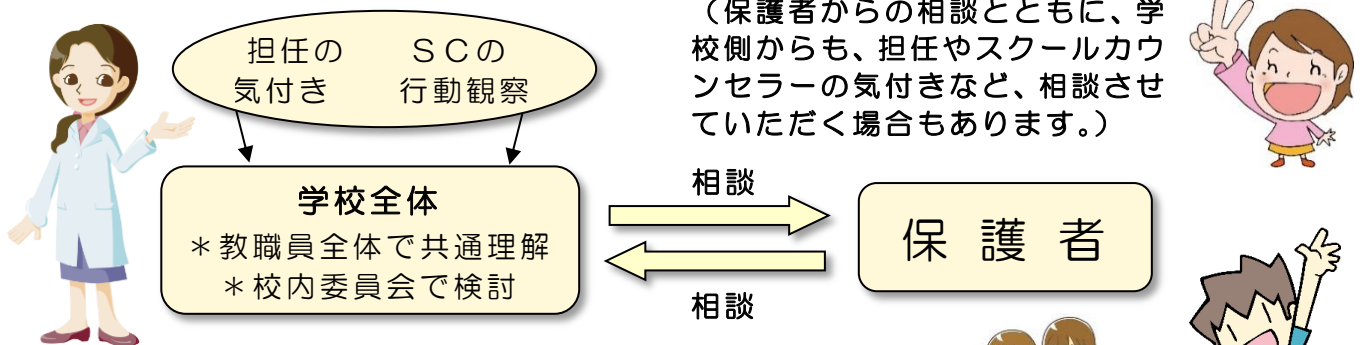


Answer 5 支援を始めると必ず子供は変わります！

学校生活の中で支援を求めている子供のサインに気付き、校内委員会で共通理解をしてサポートを進めています。さらに、家庭と相談して教育支援員によるサポートやカウンセラー等との連携を進めているケースもあります。その子供に合った支援を工夫すると、その子供の「困り感」「困難さ」を解消する環境が整い始めるので、子供は徐々に変わっていきます。子供一人一人の個性・特性に応じて、そのよさを生かして成長させる教育を行うために、教育支援を行っていきたいと思います。

* 学校側から保護者へのアプローチ *



* 支援を進めている子供の事例 *

初めての場所や場面が苦手な △△さんの場合

入学式は小学校生活のスタートとなる大きな行事です。しかし、静かにじっとしていることが苦手で、緊張することで体が動き、おしゃべりをしてしまう△△さん。

事前に保育園や幼稚園、家庭と相談しながら、式の前に教員と一緒に、校内や会場を見て回ったりして、慣れるようにしています。また、式の流れやプログラム、予定表などを詳しく説明することで、不安を解消させるようにしています。また、その子供に支援員が声をかけやすいように座席配置を工夫したことで、気持ちを落ち着かせて式に参加することができました。



些細なことでイライラしてしまう ○○くんの場合

国語で花のしくみについて書かれた教材文の学習をしているときに、ふっと友達のおしゃべりが気になり、「うるさくてしょうがない」とつぶやきはじめる。周りが静かになっても「うるさいなあ」と、そのことにこだわって学習に集中できない○○くん。

教育支援員がそばについて、気持ちを言葉にさせて聞き、不安を解消させるようにしています。静かな別室で対応することで、少しずつ気持ちを早く切り替えられるようになってきました。



漢字が苦手な 学習につまずいていた ◇◇くんの場合

計算はできるのに、文章題になると手が止まり、隣の友達にちょっかいを出し始める◇◇くん。注意を受けることも増えて、「どうせやっても分からない」と開き直る様子も見られました。

学校と家庭で相談して、その原因を探ると、書く練習はしているものの漢字の意味の理解が遅れているために、国語や社会などの学習につまずいていることが分かりました。「できるようにになりたい」という本人の気持ちに応えられるように支援を工夫し始めました。

